

市長	比田勝尚喜君
副市長	桐谷 雅宣君
教育長	永留 和博君
総務部長	有江 正光君
総務課長	松井 恵夫君
しまづくり推進部長	阿比留勝也君
観光交流商工部長	俵 輝孝君
市民生活部長	根メ 英夫君
福祉保険部長	仁位 孝良君
健康づくり推進部長	福井 順一君
農林水産部長	西村 圭司君
建設部長	佐伯 廣教君
水道局長	大浦 展裕君
教育部長	須川 善美君
中対馬振興部長	平山 祝詞君
上対馬振興部長	園田 俊盛君
美津島行政サービスセンター所長	神宮 喜仁君
峰行政サービスセンター所長	佐伯 正君
上県行政サービスセンター所長	多田 幸喜君
消防長	永留 弘和君
会計管理者	阿比留 保君
監査委員事務局長	小島 勝也君
農業委員会事務局長	庄司 智文君

---

午前10時00分開議

○議長（小川 廣康君） おはようございます。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 市政一般質問**

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は3人を予定しております。それでは、届け出順に発言を許します。9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） おはようございます。新政会の黒田昭雄でございます。まず、質問に入ります前に2点だけお話をさせていただきます。

まず、さきの衆議院選でございますが、私ども公明党に対しまして、比較第2党、比例区において大きく御支援をくださいました。まず、深く御礼申し上げます。

この私ども公明党というのは、都市部に強い政党と言われておりますけれども、今、若い国会議員が一生懸命地方のことも、特に対馬のことも一生懸命勉強をいたしまして、何かお役に立てることはないか、ないかということで、ずっと私のほうに連絡が参っております。

今回質問します1項目めです。漁業関係の輸送コストの助成事業についても、私ども参議院議員の河野義弘が大きく働きをかけてくれて、尽力をしてくれました。今後とも自民党とともに、しっかり島のために働いてまいりたいと思っております。

もう一点が、先日、ハローワークのほうで、不登校とかひきこもりです。サポートステーションが11月1日から開設するに当たりまして、開設記念のシンポジウムが行われました。これも私も参加をさせていただきましたが、まさかこんな田舎の対馬までこういう施設ができるものとも私も考えておらず、本当に待望しておりましたが、これについても、さっきにフリースペースの質問がありましたが、こういった施設とともに、大いに活用していただきたいと思っております。

それでは、通告に従いまして、市政一般質問をさせていただきます。

大きく3点でございますが、先の1点、2点目につきましては、これは私どもホームページに載っております会議の中身ですが、これは本会議しか公表されておられません。委員会とか、特に決算、予算委員会でのこの2点については先輩議員もずっと質問を重ねてきたわけですけども、本会議において一般質問をされておられませんので、これはもうしっかりしていこうということで、1点考えました。

それでは、3点一般質問させていただきますが、まず最初に、活魚・鮮魚等輸送コスト助成事業についてでございます。

これは、国境離島新法で輸送コストが8割助成されるようになりまして、大変喜んでいるところでもあります。要件を満たせば誰でも8割の補助がされるもので、その要件というのは、一番大きなことがフェリーや飛行機で送るということでございます。魚関係でいえば、大量の箱で送るイカ釣り漁が一番有利な仕組みと言われております。

さて、今回私が質問したいのは、活魚、生きた魚です。これを運搬船で運ぶことについても補助の対象に入れてもらえないかということでございます。

延縄、シイラ漬など、一部の漁業者であります。自分のとってきた魚の単価を上げたいためにやっていることで、主にブリ、ヒラゴ、アナゴ等が主な送るもので、サザエを船いっぱいにして送ったということも聞き及んでおります。

とってきた魚をどのように送るか、ざっくり流れを申し上げますと、まず、沖で生きたまま魚を自分の船の生けすに入れます。そして、漁を終えて自分の港に帰ります。そして、湾内にある自分の生けすに毎日毎日ためていくと。

ここで、当然わかり切ったことを申し上げますが、市場の相場というのは需要と供給の関係で高くなったり低くなったりいたします。したがって、年末年始やしけたときなど、魚の値段がぐっと上がることとなります。その高く取引されるタイミングを漁協職員が見計らいまして、福岡の市場と調整をしながら、運搬船を手配して、漁協湾内から福岡の市場まで直接生きたまま魚を送っていく、そういう一連の流れでございます。

この運搬船による輸送は、現在、全額漁業者の負担となっており、かなり大きな負担となっております。今まで漁協から何度となく要望を受けてきたことと思いますけれども、かならず、我慢をして頑張ってきたと私は思っております。しかしながら、今、ヨコワがとれないということで、この運搬船による輸送コストに対して、何とかしてくれないかなという声が増しに高くなってきております。

今、漁業者も浜プランというか、そういった取り組み等も頑張っておられます。また、総合計画でも漁業者の所得向上ということでもうたっております。一部の漁業者かもしれませんが、私は所得の底上げができるのではないかと考えております。この運搬船による輸送についても補助の対象に入れてもらえないかお尋ねをいたします。

次に2点目でございますが、合併処理浄化槽普及促進事業についてでございます。

これちょっと例えを詳しく申し上げますが、私のふるさと高浜湾は雞知川からつながっております。私が子供のころ、40年前ぐらいになりますが、高浜湾はきれいでした。アユもいっぱいおりました。ウナギもいました。国道のそば、今現在、車から眺められますが、あの一番近い湾内で私どもは泳いでおりました。今はどうかと。雞知川の上澄みは澄んでいるように見えますけれども、ところどころはヘドロ状態でございます。毒性の水草も生えているということも聞いております。

以前、教育長が雞知中学校の校長先生のところには、掃除も定期的にやっていたようですが、今考えれば、大変危険なことをやっていたなということを感じております。

大雨が降ると、その淀んでいる汚い水が全部高浜湾に流れてまいります。また、雨がやむと、また汚い水をためて、その繰り返しがここまで汚くなったと思います。外海まで汚くなってくると、先ほど、湾内で魚を生かすこともできなくなり、漁協は大変な打撃を受けることにもなります。

県下でも赤潮対策の議論があっております。対馬でも今里の養殖マグロの大量死がありました。専門家によりますと、大雨で汚い雨が湾内でとどまったら、いろいろな条件が重なることによっ

て、対馬でも赤潮が発生する可能性は非常に高いんだよということもおっしゃっておられます。特に、浅茅湾が危険だという話も聞いております。あそこは養殖の日本でも大変メッカなところでございますので、大変近い将来というか、遠い将来になるかと思いませんが、大変危惧しているところでございます。

やっぱり、水をきれいにするためにも、合併処理浄化槽の普及率を上げていかないと感じております。

この件でお尋ねしたいのは、この事業というのは、現在、設置するときだけに補助があるものでございます。そういった環境のことも考えて、そして維持管理費も納得して合併処理浄化槽の設置に踏み切ったこととは思いますが、その中で、費用的に大変困っている方にだけは、何とか維持管理費の一部助成ができないかということでございます。

合併処理浄化槽の維持管理というのは、保守点検、清掃、検査を法律上、必ずしなければならず、その費用は年間五、六万円ぐらいかかるということでございます。くみ取りに改修しようかと悩んでいる方も多いようでございます。

御存じのとおり、全国の先進地では、くみ取り料相当額は、最低ではもらわないといけないということで、その中で何とか2万円前後ぐらいの助成をする自治体は全国で、県下では少ないですが、増えつつあります。人生いろいろで、子供が全員島外に出て行って、それからひとり世帯となり、年金のみの収入となり、1人で7人槽の維持管理をしている人もいると聞いております。

本市においても、設置後、本当に困っている方だけでいいので、維持管理費の一部助成ができないかお尋ねいたします。

次に3点目でございますが、世界記憶遺産のPRについてでございます。

私が、世界記憶遺産の登録の決定を知りましたのは、壱岐振興局で視察中でございました。振興局長から聞いて初めて知りました。喜んでおられました。当たり前ですね。壱岐も1点登録されたということでございます。喜ぶのは当たり前ですが、私は何か不思議に思いました。これは、日本のあちこちで、韓国でもこんなふうに喜んでいるんだなど、思いました。

でも、一番喜ばんといけんのは、対馬じゃないといけんよねと私も感じました。対馬には縁地連の事務局もあります。まつり振興会、劇団、観光関係等、今まで、私は苦勞していませんが、熱く苦勞されてきた方を肌身で感じてまいりました。改めまして、世界記憶遺産の登録に向けて御尽力くださいました全ての皆様に感謝を申し上げたいと思います。

私は、この世界記憶遺産のこの盛り上がりの中で、新しい巖原のターミナルに世界記憶遺産にちなんだネーミングをつけてはと考えております。巖原港は日韓交流で巖原港まつりがあり、対岸にはお船江も残っており、朝鮮通信使時代は重要な中継港として大きな役割を果たしてまいりました。島の人も旅行者も親しめて、誰もがわかりやすいような、その名前自体を聞いて、朝鮮

通信使のランドマーク、象徴ですか。象徴的な存在になるような愛称をつけてはどうかと考えておりますが、いかがでしょうか。よろしくお願いたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。黒田議員の御質問にお答えいたします。

初めに、活魚・鮮魚等輸送コスト助成についてでございますけれども、特定有人国境離島法の柱の一つでもあります輸送コストの負担軽減につきましては、市としても新法の拡充枠を最大限に活用するため、昨年度までは漁協の取扱いのみを対象としておりましたが、今年度からは法人、個人事業所など、対象枠を拡充し、より多くの漁業関係者に支援をしているところでございます。

また、海上輸送及び空路輸送について、補助率を3分の2から10分の8へアップし、マグロの餌など、本土からの輸入についても新たに支援メニューに加えたところでございます。

運搬船の輸送につきましては、対馬から本土までの輸送であることと、数量の確認が困難ではないかとの国の見解でございました。そのようなわけで、これまで補助対象としていなかったものでございますが、漁協等からの要望もございまして、今回、県及び国と協議を進める中、対馬から本土までの輸送で、なおかつ数量の証明が可能であるなら、市の判断に委ねるとの国の見解でございます。

そこで、12漁協の担当者を参集し、取扱いについて協議を行った結果、個人の漁船で直接輸送する場合は国の見解のとおり対象とはなりません。漁協等の運搬船により集約して輸送する場合は、申請時に島内漁協の証明とあわせて、本土の魚市場等の入荷証明書を添付するというところで支援ができるよう調整を図ったところでございます。

これにより、今年度の第3四半期の10月以降から、補助対象として取扱いをすることで、各漁協へ通知をいたしました。

今後も漁協者の声に耳を傾け、所得の向上につながるような施策に講じ、漁業経営の安定化に努めてまいりたいというふうに考えております。

次に、2点目の合併浄化槽普及促進事業についてでございますけれども、現在、本市では補助金交付要綱を策定し、合併浄化槽設置時に補助を行っているところでございます。

また、平成23年11月から国の基準額に市の単独の上乗せを行い、普及促進に努めているところでございます。

御質問の維持管理費への補助につきましては、県内では2市2町が実施しております。実施されている2市2町は、公共下水道、農業集落排水処理施設等の汚水処理率が高く、計画区域内の公共下水道等の費用負担に合わせて、区域外の合併浄化槽の維持管理費との公平性を図るために補助を行っている状況とのことでありまして、本市とは若干事情が異なるようであります。

本市としましても、合併浄化槽の普及啓発のためには大変有効な手段であると考えてはおりま

すが、本市の汚水処理の普及率は県下でも3番目に低く、普及率の向上のため、今後も設置補助に傾注した取り組みを行っていくべきと考えております。

維持管理費につきましては、国県の補助もなく、維持管理費に対する補助金を実施する場合には、全額一般財源からの支出が必要となりますので、今後の普及率の動向を勘案しながら検討すべきというふうと考えております。

また、議員の質問の中で、本当に困っている世帯というようなことで、高齢者等の低所得者に対しての補助を検討してはどうかというような意見だというふうに思いますが、これにつきましては、浄化槽の設置者だけ維持管理費の補助を実施することは、くみ取り式の高齢者、低所得者等の均衡が図れるのか、慎重な対応が必要と考えており、今後、研究してまいりたいというふうと考えております。

次に、世界記憶遺産のPRについてでございますけれども、議員の御提案であります厳原港や対馬空港の愛称についてお答えいたします。

対馬空港の愛称であります対馬やまねこ空港は、平成19年に一般公募を行い、1,606件の応募の中から10候補を選考し、市内小中高校生の投票により、平成20年1月に決定したものです。既にANAの機内誌の航路図等に対馬やまねこ空港の愛称が記載されており、島内外の方々に親しまれ、広く定着しつつあることから、変更することは好ましくないというふうと考えております。

一方、港湾における愛称でございますけれども、全国的にも事例が少なく、京都府舞鶴市の舞鶴港におきまして、京都という認知度の高い地名を付した、通称京都舞鶴港を利用しております。厳原港に愛称をつけることについては、特に制限はないものと思われましても、対馬の海の玄関口として機能していることから、関係機関と事前に協議することが必要でございます。

また、厳原港は朝鮮通信使の寄港地でもあったことから、通信使にかかわる島内各団体との十分な協議を尽くすべきではないかというふうと考えております。

朝鮮通信使をPRするためには、愛称や通称だけでなく、案内板や説明板、パンフレット等により、朝鮮通信使と厳原港のつながりを紹介することも有効であるというふうと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） ありがとうございます。

まず1点目につきましては、活魚・鮮魚等輸送コスト助成事業です。これについては、しっかり取り組んでいただきまして、担当と各漁協とも調整を図っていただきまして、10月以降、現在になりますが、第3四半期ですか、10月から12月ですか。から、一応、できる方向になるということで、本当にありがとうございました。

これについて、もう既にブリをためているようでございますので、漁業者からも大変感謝の声が聞こえてくると思っております。大変ありがとうございます。

次に2点目でございますが、合併処理浄化槽の普及促進事業についてでございます。これについては、厳しかろうということです。また、低所得者についてもくみ取りとの公平性というか、そこら辺で研究はして下さるといふことで理解はできました。

ただ一つ、これもずっと言われていることなんですが、ほかのところは下水道の普及率がかなり高い。だから、それとの引き合いに出して、公平性を図るために合併処理浄化槽の維持管理も何とかということですが、その中で、対馬は唯一、阿連ですか、漁業集落排水です。ここは委員長報告でも未償還残高は約2億円です。返してしまうまでが平成46年までかかるという、ここではやっぱり公費は投入しているわけですので、せっかく合併処理浄化槽ということで、今施設あるものは、やっぱり私は守っていかないといけないと思うんです。研究して下さるといふことですから、余りくどくど言いませんけれども、やっぱりそういった環境を考えて、お金も納得して合併処理浄化槽に、新築のときとかなんかに決意してされたと思うんですが、やっぱりいろいろな家庭の状況で、1人で、先ほど言いましたように7人槽ぐらいを背負ってると、こういった方は、業者とか検査官によりますと、貯金箱からためたであろう小銭を寄せ集めて払わないけんような話も聞いております。そういった方々を、研究して下さるといふことでしょうから、ぜひそういった方を抽出されまして、援助してあげてほしいなと思います。

それから、これも市民生活部長のほうがマイナンバーはまだ貯蓄まで把握はできないんだよという、そういう進捗でございますが、これも徐々にマイナンバーに所得も把握ができるようになってまいりますので、そういった意味でも、今後、これを、そういった方だけを最初に情報を入れ込むとか、何とか研究をしてもらいたいなと思っております。

助けるということは、ある意味、新築とか改築で合併浄化槽にしようかなという呼び水ですか、なってくると思いますので、私は低所得者といえますか、困っている方にそういった助成をすること、制度をつくること自体が今後の安心感につながっていきますので、普及に私はつながってくると思っておりますが、このところどうなんでしょうか。本当、何とかしてほしいと思います。

ところで一つ気になるところが、検査官とか、また業者さんが十何社ありますけども、現場をしっかりと見てののかなど。私がこう言っているのが、本当にわかっているのかなと思っております。法定検査があります、年に1回です。清掃、保守点検、これは三、四回します、年に。こういったことを、法定検査さえもしきらない人もいます。法定検査は何とかして、あと清掃、保守点検は高くしてしきらんとか。それで、本来の浄化槽機能を保たないところありますが、そういう市民の現実の検査に対する姿勢というか、また、検査を

してる方、保守点検、清掃、そういった現場の声というのが本当に届いているのかなど、私は感じておるんですが、どうですか、市長。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この浄化槽の関係につきましては、市のほうといたしましても、この高齢者世帯の数を調べておりますけども、この浄化槽管理者が70歳以上の世帯が199世帯ある。そしてまた75歳以上の世帯が118世帯あるということまでは調査をしているところでございます。

そしてまた、それに関しまして、先ほど議員のほうからも説明がありましたように、合併浄化槽の7人槽になりますと、年間の管理費用が約5万1,000円。そして、くみ取り式の2人世帯の場合は約2万3,400円というふうに、倍以上の管理費になっているというようなことまでこちらのほうでは調査をしているところでございますけども、先ほど答弁の中でもさせてもらいましたように、これを公平性をどのように保っていくかという点が1点と、この対馬市の汚水処理関係、要するに合併処理、そして公共下水道関係の普及率が県下21市町の中で19番目になっておりまして、まだまだ32%でしかあってない。まずは、この普及率をもう少し高めていくことが先決ではないかというようなこともございますので、そこら辺も含めて、今後、研究をさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） わかりました。しっかり研究をしていただきたいと思います。

最後に、世界記憶遺産のPRについてでございます。突拍子のない質問でしたけども、これも私はいいと感じておりますので、研究していただきたいと思います。

ひとつそこで、ちょっと関連して気になるのが、やっぱり世界記憶遺産というのは、私は博物館にだけ1点集中してほしいなという思いを持っております。これが終わって、議員全員協議会でもまだまだ博物館のコンセプトというか、はっきりしないまま、きのう、資料館建設という、そう市長が強引というか、打ち上げましたけども、本当にそんな強い思いの中、どれだけ経費がかかるかわかんない中で、どんと打ち上げましたけども、私は、市長の執行権を侵害するつもりはないんですが、市長ですから、どんとやっぱ政策を打ち上げてほしいのはやまやまですが、私は博物館に集中しないような、そういう流れになるんじゃないかなろうかなという、それをちょっと心配したわけですけども、そこんところ、私が考えますのは、今回、ターミナルをそういった世界記憶遺産をイメージできるようなそういう愛称をして、そこから博物館にとか、そういう私なりの流れを持って質問したつもりでありますけども、今回の資料館の建設が、世界記憶遺産、博物館行かんでそっちに行くんじゃないかなろうかなという、そういう心配をするわけですが、決し



て博物館の思い、市長も大層強うございますので、そういったことは決してないとは思いますが、必ず博物館を登竜門として、研究したい者だけがそっちの資料館行くなりいいんですが、もう普通の人が、博物館、入場券高いよね、資料館に行こうかなという。そっち行かんで資料館にだけ行って帰りましたよみたいな、そういうことをちょっと心配するわけですが、大丈夫でしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この朝鮮通信使の資料館の関係につきましては、顕彰委員会とか縁地連関係の団体、こういったところから、このたびの朝鮮通信使の関係資料については、対馬で登録されたのは5点だけですけども、まだこのほかにもかなりの数の資料があるんですと。そういうことで、博物館のほうではなかなかそれを全てを展示することは、スペースの関係で難しいようです。

そういう関係で、できたら他の資料も、せっかくでございますので、この朝鮮通信使の資料館のほうで見せられるようなことができないかというような提言をいただいておりますので、これに沿って、ちょっといろいろと組み立てをしていきたいというようなことで、このたび、その構想を打ち上げたような次第でございます。決して博物館にだけ行って、逆か。資料館だけに行つて、博物館に行かないと、そういったことにはならないように組立てを行つてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 9番、黒田昭雄君。

○議員（9番 黒田 昭雄君） よくわかりました。そのように期待をしております。

時間は余っておりますけれども、これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで黒田昭雄君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩いたします。再開を10時50分からいたします。

午前10時37分休憩

午前10時48分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。

2番、伊原徹君。

○議員（2番 伊原 徹君） 皆様こんにちは。本日は、市役所本庁と対馬振興局との全組織の執務の共同化、合同庁舎の整備計画について、高齢者認知症事業への展開、福祉施設の受け入れ体制についての2点を質問させていただきます。

1点目は、時間等の関係で1ページほどカットいたしました。私の真意が伝わることを念じ、